



■昨年を300人上回る参加者で 原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会が開催■

原発ゼロへのカウントダウン in かわさき実行委員会 事務局次長 かもした元



午後2時すぎ中原平和公園を出発して武蔵小杉駅までデモ行進。「子どもの未来のために原発なくそう」

3月13日(日)、中原平和公園で「第五回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会&デモが開催され1200名の市民が参加した。

1年前の前回集会の後、鹿児島県川内原発1号機、2号機、福井県高浜原発3号機、4号機の再稼働が強行(ただし高浜原発については故障と大津地裁での仮処分により再稼働後に停止)された。福島では浜通りを中心に事故から5年たった今も放射線量の高い地域が多く、原子炉から放射性物質の流出が今も続いている。私自身、半年前に福島を訪れたが、立ち入りが制限されていない場所でも部分的に放射線量が高く年間被曝量に換算すれば20ミリシーベルトを超えて

しまうようなホットスポットがいくつもあった。それなのに、政府は、放射線被曝によって健康被害が生じてもそれを立証することが難しいことを利用して、盛んに安全を宣伝して強引な福島への帰還政策を推し進めている。来年度には自主避難者への支援も打ち切られる。

福島第一原発事故から5年という節目の年に開かれた原発ゼロ集会は、そうした状況の中で、川崎市民の中に、原発はいらないという想い、福島原発事故の被害者と連帯して闘いたいという想いが強くあることを示し、政府や電力会社など原発推進勢力への抗議のメッセージを発信する場となった。また、時間の経過や記憶の風化とともに



午後1時から中央舞台での講演とスピーチに老若男女、大勢が聞き入った。



私たちが団体の活動紹介。3号機の屋根を貸してくださいとアピールした。

運動参加者が全国的に減少傾向にある中で、様々な困難を乗り越えて思想・信条・支持政党の違いを超えて市民が共闘する実行委員会を維持してきた川崎市で、昨年より300人も参加者を増やして集会を成功させたことは、原発立地地域で闘っている市民や福島県民を大きく励ますことにつながるだろう。



集会では、30以上の市民団体が活動をお知らせするブースや模擬店を出した。当NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所は、電力自由化に関する「パネル展示」と「やきとり」を販売し大好評！ 中央舞台では、音楽演奏など文化行事の後、日本人初の宇宙飛行士を務め、その後、福島でシイタケ栽培の農業に取り組んでいたところ原発事故が起きて避難生活を余儀なくされた秋山豊寛さんが講演。また、今年はチェルノブイリ原発事故から30年であり、その支援運動に携わってきた向井雪子さんも講演をされた。



「パネル展示」と「やきとり」販売で出展。

その後、集会アピールを採択。原発再稼働反対、子どもを放射能から守ろうと訴え、武蔵小杉駅まで大規模なデモ行進がおこなわれた。



■ 1号機の発電状況報告 ■

2月に入り冬晴れの日が多くなり、太陽光発電にとってうれしい日々が続いていますね。

昨年1月22日から発電開始した1号機の年間発電実績がまとまりましたのでお知らせします。2月11日時点で32,091kWh発電しました。売電収入は基本料金と通信料を差し引くと103万円くらいになります。3月、5月および10月は良く発電しましたが、8月は天気が良くなかったです。

パネル1kWあたりになおすと、年間1,200kWhあまり発電しています。他の市民発電所の年間発電



量がわかりましたら年間発電電力量を設備容量で割って比較してみてください。

1号機の傾斜角5度は太陽の高さが低い冬の発電は不利ですが、変換効率の高いドイツSMA製のパワーコンディショナーがしっかりカバーしている印象です。

住環境計画研究所の太陽光発電診断サイト

(ソーラークリニック)に毎月の発電実績を登録しておりますが、傾斜角5度にしてはなかなかの成績を叩き出しております。

2号機も順調に発電しています。そして、**3号機予定地を大募集中です！** 設置に適した屋根情報がありましたら、どんな些細な情報でもよいのでお知らせください。 **事業検討チーム 木田 千栄美**



■日影規制の条例化を求める陳情、継続審査に■ ～川崎市議会「まちづくり委員会」傍聴報告～

当 NPO 法人は、中原区のマンション屋上に設置した発電所 1 号機の“日影問題”に直面しています。（関連記事＝でん太通信第 15 号と第 17 号に掲載）

これは、都市なら「どこにでも起きうる」新たな問題であると捉えて、「太陽光発電設備への日影規制を市条例で新たに定めるよう」要望し、当 NPO 法人から川崎市議会に陳情第 40 号を提出しました。

●川崎市のため、条例化を！

私たちは 2 月 1 日から各会派を廻って陳情の主旨を丁寧に説明させていただきました。条例による法的な規制によって太陽光発電を保護することは、川崎市が災害に強く環境に優しい持続可能な町となることにつながります。

また、建築基準法による日影規制では 8 時から 16 時迄の時間帯に限られているため、電気は財産という考え方から日影規制を「日の出から日の入り迄」に拡大すべきと考える根拠などをお示しました。過密都市であり、公害を克服してきた川崎市が全国に先駆けて条例化することは意義があります。

●なぜ、継続審査！？

2 月 4 日の「まちづくり委員会」は、委員（市議）12 人、関係局の職員 20 人程が列席。傍聴者 16 人が審議を見守りました。

石川市議からの「条例化は法律上できないのか」という質問に対して、市まちづくり局からは「地方自治法では理論上作るのとは可能」としつつ、「日の出から日の入り迄の規制は現実的ではないため、条例で規制するのは困難」との答弁でした。浜田市議・重富市議からの質問に対して、「法によっての規制は出来ない」「指導はしない」「考えておりません」「著しく公益的に厳しいので条例化は困難」という答弁で、まち局の頑なな姿勢を感じました。

終盤、斉藤市議からの「太陽光パネルが増えているが、どういう考えを持っているか」という質問に対して、市環境局が「普及をしていく」と答弁。さらに「川崎市がそういう考えならば、日影によって阻害されないようにすべきでは」との質問に、環境局からは「他自治体と事例を持ち寄る場がある。今後検討していく」と、前向きな姿勢が見えました。まちづくり局からも「他都市でも起きていることは認識している。裁判は発生していないが、事例を研究しながら考えていきたい」と答弁がありました。押本市議から「国への意見書を求める」という意見も出ました。

結果は継続審査が 7、趣旨採択が 3 で、残念ながら『継続審査』と可決されました。

まちづくり委員会の傍聴後、意見交換をしました。



●今後

継続審査ということは 99% 「やらない」ということです。が、市議の方々の議論と局の答弁から、個別の問題が公の問題として扱われたことは大きな意義があったと感じます。今後、当 NPO 法人としては同様の事例を集めていき、あらためて条例化を目指します。

副理事長 加藤 伸子



■自己紹介コーナー■ No.18

今月号は、いつも笑顔の好青年、政策提言になくてはならない存在の岩坂康佑^{こうすけ}さんの自己紹介です。



1. 私自身について

初めまして。岩坂康佑と申します。

私は横浜市出身で、川崎市に住みはじめて約3年になります。登戸で弁護士をやっています。2014年12月に弁護士登録をしましたので、まだまだ若輩者です。

趣味は古い推理小説を読むことです。クリスティーカー、パロネス・オルツィなどがお気に入りです。

2. かわさき発電所との出会い

私は元々環境問題に関心があり、大学や大学院でも環境法に関する講義を好んで履修していました。弁護士を志した理由の一つにも、法律を使って環境問題に取り組む仕事をしたかったということがあります。

私は、環境問題は発生を未然に防止をすることが最も重要であると考えています。そして、未然防止には法の存在が大きな役割を果たすことと思います。そのため、法律家になったからには、法を使うことはもちろん、機会があれば法を作ることにも関わってみたいと考えていました。

そうしたところ、弁護士になって少ししたある日、かわさき発電所の理事長である川岸弁護士に出会いました。川岸先生は、「うちのNPOでは条例案を検討している。」とお話をしてくださいました。

原発問題やエネルギー問題にも関心があった私としては、かわさき発電所に参加しない手はありませんでした。

3. かわさき発電所での活動

かわさき発電所では、主に政策検討チームに参加しています。条例案の検討などを通して、行政、議会、法政策、法の運用、川崎市の特徴など、様々な事項に目を向ける機会になっています。また、その中でチームの皆さんとお話をしあれこれ考えることは、とても勉強になり、楽しいばかりです。

かわさき発電所は老若男女が集い、柔軟な発想をもってあらゆる工夫と努力をする団体であると感じています。原発のない社会の実現のために、どんどんとおもしろいことを進めていっていると思います。

私は政策検討チーム以外にはなかなか参加ができていませんが、ぜひできる限りもっと他のことにも参加していきたいです。

政策検討チーム 岩坂 康佑

【編集後記】

震災と原発事故に伴う避難者数は9万9991人。もう5年も経過した。日本はそれほど貧しい国ではないし、技術的にも優秀な人材や企業がたくさんあるのに。なぜ弱者は弱者のまま置き去りなんだろうか…。川崎で出来ることをやっぺいこう。持続可能な社会を作るための一つひとつを。 (加藤伸子)

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

